

ア オ ジ

Emberiza spodocephala



分類	スズメ目ホオジロ科												
特徴	高原の樹上でゆっくりさえずる、下面に黄色みのあるホオジロ類。夏鳥として北海道と本州に渡来し、繁殖する。北海道と東北地方北部では平地から山地にまで広く分布するが、それ以南では山地に限られ、本州西部では分布が局地的である。冬期は積雪の少ない暖地に移動する。国外ではシベリア東部、サハリンや千島などに棲息し、一部が冬鳥として日本に多数渡来する。												
生活	繁殖期には明るい林や草原に接した林のヘリなどに棲息し、本州では代表的な高原の鳥である。北海道では海岸の低木林、シラカバやカシワなどの疎林、山地のカラマツ林などに広く棲息し、個体数も多い。つがいで縄張りを持ち、地上または低木の枝の上に、イネ科植物の茎や葉で椀形の巣を作る。越冬期には平地から低山の明るい林の下やぶで生活し、やぶがあれば市街地の公園や庭にも姿を見せる。												
声	繁殖期には木の梢や枝先、電線などにとまって「チョチョチチチリー、チョッリリ」という、澄んだ声でさえずるが、少し濁った「ジリリリ」という声をつけることも多い。ホオジロよりゆっくりとさえずる。												
見分け方	下面が黄色い点でノジコ、シマアオジと似るが、ノジコは下面に縦斑がなくシマアオジは翼に白斑がある。												
時期：繁殖 ：越冬	(月)	-	-	-	4	5	6	7	8	9	10	11	-
	(月)	1	2	3	4	-	-	-	-	-	10	11	12
その他	全長(L)16cm 翼開長(W)22cm												
参考文献：山溪カラー名鑑 日本の野鳥													